



2019年5月8日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ワ ー ル ド  
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 執 行 役 員 上 山 健 二  
(コード番号：3612 東証第一部)  
問 合 せ 先 グループ常務執行役員 中林 恵一  
(TEL：078-302-7600)

### セグメントの変更に関するお知らせ

当社は、2019年3月期第1四半期より、報告セグメントを変更することを決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

#### 1. 変更の理由

当社は、報告セグメントを「ブランド事業」「投資事業」「デジタル事業」「プラットフォーム事業」の4区分としておりましたが、IR等を通じて面談させて頂いた投資家の方々より、主に投資事業セグメントに係る次の2点において「開示情報を分かり易くして欲しい」というご要望をいただきました。

- ① ポートフォリオの最適化を目的とした投資事業セグメントとブランド事業セグメント間の入替えや、M&Aにより当社グループに加入した企業の経営統合（PMI）プロセスを経て、投資事業セグメントから他の事業セグメントへ会社等の移管が発生すること
- ② グループ会社からホールディングスへの配当及び経営指導料が投資事業セグメントの利益に含まれており、段階的にM&A等で外部より収益を得る事業を増やしているものの、現時点ではこうした内部収益が投資事業セグメント利益の大部分を占めていること

このため、当社では、開示内容の改善を図るべく、当社グループの戦略との整合性を図りつつ、上記2点を中心とした投資家の方々のご要望を開示に反映することを検討してまいりました。

そして、各セグメントの損益状況を継続的に確認できるようにすること及び事業部門の損益を共通部門と区分して確認できるようにすることで、投資家の皆様に当社の事業理解をより促進することが可能であると考え、下記のとおり報告セグメントの変更を行うことといたしました。

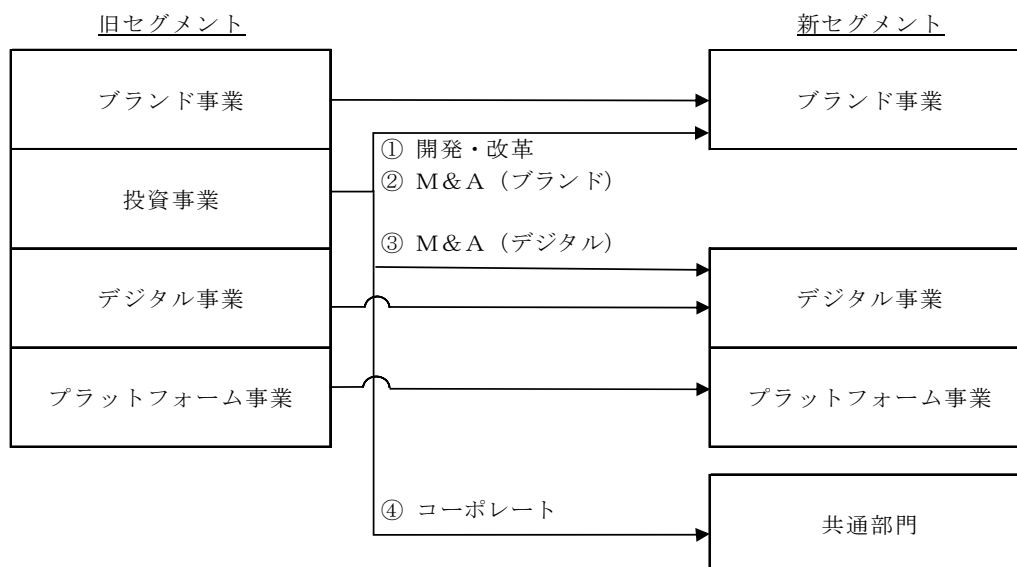
#### 2. 報告セグメントの変更の内容

報告セグメントの変更のポイントは、次図のとおり、投資事業セグメントを四つのグループに分類して再配置することです。

まず、開発・改革中のブランド事業を営む会社（①開発・改革）は集中投資や構造改革が不可欠であり、M&Aで加入したブランド事業の会社（②M&A（ブランド））については経営統合（PMI）のプロセスが必要であるため、投資事業セグメントに配置しておりました。しかしながら、これらはいずれも多くのブランド事業の会社と同様の小売事業を営んでいるため、ブランド事業セグメントに再配置いたします。

また、M&Aで加入してデジタル軸の事業を行っている会社（③M&A（デジタル））については、これまで経営統合（PMI）プロセスを進める上で投資事業セグメントに配置しておりましたが、デジタル事業との親和性が高いことから、これからはデジタル事業セグメントに再配置いたします。

子会社からの配当や経営指導料等を収入としてホールディングスのスタッフ等の費用を賄うコーポレート関連（④コーポレート）については、事業セグメントには属さない共通部門を新設し、子会社からの配当を予め連結消去して除いたうえで、そこに再配置することといたします。



なお、こうした旧セグメントから新セグメントの組み換えについては、次表の視点でも整理しており、こちらでは各子会社・関連会社が投資事業セグメントから四つに分類されたグループの何処に所属しているのかを表しております。

旧セグメント		内容	会社	新セグメント	
投資事業	バリューアップ	開発・改革	(株)インターキューブ (株)イノベーションリンク (株)アダバット	ブランド事業	
		ポートフォリオ管理	(株)ワールド (株)ワールドインベストメントネットワーク	共通部門 ブランド事業	
	M&A	M&A (ブランド)	事業ポートフォリオの最適化を目的とした中間持株会社である株式会社ワールドインベストメントネットワークやファンドを通じた投資	(株)アスブルンド (株)W&D インベストメントデザイン W&D デザイン投資事業有限責任組合	ブランド事業
		M&A (デジタル)	デジタル軸の新規サービス開発や技術の獲得等を目的とした投資	(株)ティンパンアレイ (株)オムニス	デジタル事業

以上